

平成 18 年 3 月 10 日

# 第 1 回 広野町議会定例会

## 町長施政方針並びに経過報告

平成十八年第一回広野町議会定例会は、三月十日から十六日までの日程で開催され、平成十八年度一般会計、各特別会計をはじめ全二十六件の議案を提出し可決されました。

### ＜町長施政方針（要約）＞

この度、第二十回町議会広報全国コンクールにおいて、広野町議会が地域住民と議会との意思疎通を図ることを目的に発行いたしました。広野町議会広報紙「ひろの議会だより」がその斬新な企画立案と編集技術が認められ、企画部門奨励賞の栄に浴されましたこと、誠にありがとうございます。心からお祝いを申し上げますとともに、広野町議会が議会紙発行における創意と工夫にあらためて敬意を表するところであります。どうか今後とも、一層御研鑽を積まれ、この事業にさらに一段の光彩を加えられ、町政進展に何卒お力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

さて、我が国は、長期的そして継続的に人口が減っていく人口減少社会に突入するとともに、急激に進展している少子高齢化社会、そして団塊世代の退職により労働人口が激減する社会が目前に迫ってきており、

早急な社会保障制度の改革や時代に合った雇用システムの確立が求められております。

地方におきましては、三位一体改革による補助金削減により約三兆円の税源移譲が図られるものの、地方への権限移譲が進まない中で、地域の実状に合わせた特色ある地域社会の創出が求められているとともに、町民に一番身近な基礎的自治体としての役割を果たしていかなければなりません。

また、一部ではデフレを脱し回復してきたといわれる景気も、地方ではまだ実感できるものではなく、地方自治体においても地方交付税制度の改革などにより、財政環境はますます厳しい状況になることと思慮されます。

こうした状況の中、私が町長に就任して、早三ヶ月、また、新しい年を迎え町民の皆様の期待と信頼にお応えするため、公平・公正の町政と「豊で町民に優しい、安心安全で住みよい町づくり」を基本理念として、地域の個性を活かし、本町が持つて

いる自然環境、人材、文化・スポーツ・公園施設などの財産を有効に活用しながら、特に重視して取り組む事項の具体的計画・内容については議会の皆様並びに町民からの意見を広く取り入れ、次世代に誇りを持って引き継ぐことができる「豊で夢と希望に満ちて誇れる町づくり」の実現に向け全力を尽くし今年度は次の施策を基本に町政運営を進めて参ります。

町民一人ひとりが健康かつ豊で生きがいのある生活を送るためには、保健・福祉・医療の連携による総合的なサービスの提供が必要であり、町民が共に支え合い、助け合い、住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくりを進めなければなりません。生きる喜びの実感できる社会の実現を図っていくことが、私たちの責務であると痛感しています。こうした将来あるべき姿をしっかりと認識したうえで地域福祉の充実に努めて参ります。

特に高齢者福祉については、団塊の世代が高齢化を迎える今後、要介護高齢者の増加が予想されるなど、さらに厳しくなるものと考えられますので、長期的視野に立ち、平成十八年度にはデイサービスセンターイレ改修増設事業費のほか、四月に

との協議を諮って参ります。

障害者福祉事業と致しましては、身体、知的、精神の障害種別ごとに分かれていた福祉サービスを一元的なものにする障害者自立支援法の成立により、様々なニーズに適したサービスを提供するための基本指針となる、「障害者計画」及び「障害福祉計画」を策定して参ります。

保健事業につきましては、町民の健康寿命の延伸を図るため、低年齢化している生活習慣病の予防と早期発見を目指す、町内関係団体と連携を密にして町総合健康検診受診普及に一層努めるとともに、母子関連事業につきましても、各種予防接種、母子保健指導なども継続行つて参ります。

### 第二は「生活環境の整備」であります。

町民の日常生活の利便性と活性化或いは防災道路としての機能を図るため、道路網の計画的な整備に努めて参り、今年度は、幹線町道「中央台・山の神線」の舗装工事を完了させ供用開始を目指して参ります。その他、主なるものは、高萩・田中線の改良工事、二本柵・桶地線新設改良工事、久保田一号线舗装整備工事、大平・夕筋線整備事業に係る測量設計・用地買収、北沢地区ほか水路改良、大平地区農道改良費を各計上いたして

おります。

日常生活に密着した下水道普及率は公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽など、合わせて九〇パーセントを超えておりますが、今後より一層公衆衛生の向上のため、特に合併浄化槽設置整備事業補助金の見直しを行い普及促進を目指して参ります。

農業の振興による地域の活性化につきましましては、景観形成作物奨励、振興作物生産奨励、加工用米出荷推進、中山間地域等における農業生産活動の支援についても継続推進して参ります。

環境にやさしい新エネルギー利用の促進を図るため、今年度から太陽光発電システムを設置された方への助成費を計上いたしております。

ゴミの減量化につきましましては、限りある資源のリサイクルを推進するとともに、住民一人ひとりの意識高揚を図ることが大切であり、ゴミ減量化とリサイクルを推進するため、引き続き分別方法のパンフレット、資源ゴミ収集カレンダールの全戸配布し、啓発に努めるとともに、ゴミ処理機購入に対する助成を行うなど、ゴミの発生抑制、分別の徹底、リサイクルへの積極的な取り組みを推進し、人と自然が共生する環境に優しい町作りを目指して参ります。



Jヴィレッジ

全国各地において、昨年末から今年にかけて、子供が加害者・被害者となる悲惨な事件が発生しております。このような状況のもと、地域の子供たちの安全を確保するため、本年度から、地域内の子供たちの健全育成にかかわる各種団体・組織等の協力を得て、自主的な町内パトロールをお願いし、子供たちが安心して過ごせる環境作りに務めます。また、地域の防犯灯の設置や管理についても引き続き行つて参ります。

### 第三は「交流活動事業」であります。

Jヴィレッジや高速道路ネットワーク条件など「相双地域広域観光

は介護保険制度が予防重視型システムへ大きく転換改正され、六十五歳以上の健康相談・訪問指導等が老人保健事業から介護保険の地域支援事業に移行することから、一層高齢者福祉サービスの充実のため、本町では地域包括支援センターをデイサービスセンター内に設置し、高齢者が抱える様々な相談に総合的に応じ有効性のある介護予防事業を推進して参ります。

更に、国・県の御指導のもと、引き続き本町独自の特別養護老人ホームの建設について、視野を広めた中で検討して参ります。

子育て支援につきましては、次代の社会を担う子供とその家庭を支援するため、当町現行出産祝い金支給制度の形態を、上限を設けた中で出生子数に応じて増額改正することとし、更に、「次世代育成支援行動計画」に基づく具体的行動として、保育所における零歳児保育、時間外保育の充実、並びに保育料の低額設定に努め、出産と子育て環境の整備について進めて参ります。

又、近年の懸案事項となつております社会保険被保険者乳児医療費助成制度の簡略化、いわゆる医療費窓口無料化に向けて、町単体の施策ではなく広域的施策課題として郡内八町村が一丸となった中で各関係機関